

(補助事業者名：社会福祉法人かなふく 特別養護老人ホームかなふく)

補助事業名 (区分)	介護ロボット導入支援事業
5. 達成すべき目標 事業計画書に記載した ・数値目標 ・具体的な取組内容 を必ずご記入下さい。	1. 導入した介護ロボットと導入台数：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 (10台) 2. 導入日：令和3年11月1日 (月) 3. Wi-Fi環境整備等の完了日：令和3年10月25日 (月) 4. 介護ロボットの使用開始日：令和3年11月8日 (月) 5. 達成すべき目標 (1) 介護職員等の人員体制 a. 人員体制の効率に資する具体的な取組内容 利用者の状態をパソコンやスマホ等で確認出来るので無駄を省き効率的に業務を行う。 b. 数値目標 ・介護職員：日中19.5人 夜間2人 ・看護職員：日中 5.0人 夜間0人 (2) 利用者のケア a. 利用者のケアの質の維持・向上に資する具体的な取組内容 利用者の様子を正確に把握が出来る事で、転倒・転落件数を減らし、安心・安全な生活を提供する。 b. 数値目標 転倒・転落件数：月平均3件 (3) 職員の負担軽減 a. 職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する具体的な取組内容 検知率や誤報率が優れている為、不要な巡回を避ける事が可能で、それにより空いた時間を他の業務に充て、職員の負担軽減に繋げる。 b. 数値目標 ・職員の休憩時間：平均1時間/8時間勤務 ・職員の残業時間：平均10時間/月 ・夜間の巡回回数：合計5回 (特に見守りが必要な入所者10名に対しての追加巡回5回) 6. 使用状況 (1) 使う (介護職員) 人数：20名 (2) 対象となる (利用者) 人数：10名 (3) 使用頻度と場面：毎日・夜間帯 (就寝時から翌朝の起床時まで) 7. 導入効果 介護ロボットの使用開始1ヶ月前後と比較した結果、導入効果は下記の通りである。 (1) 介護職員等の人員体制 a. 人員体制の効率に資する具体的な取組成果 職員一人一人が機器を上手く活用出来た事で、日中は安全を確保しながら数値目標の職員配置数よりも更に少なくし、夜間は少ない職員配置数で効率良く業務を行うなど、人員体制を効率的に運用する事が出来た。 b. 客観的な数値 ・介護職員 (導入前) 日中20人、夜間2人⇒ (導入後) 日中19人、夜間2人 ・看護職員 (導入前) 日中 5人、夜間0人⇒ (導入後) 日中 5人、夜間0人 (2) 利用者のケア a. 利用者のケアの質の維持・向上に資する具体的な取組成果 利用者の状態に合わせたアラーム設定が出来る為、利用者の動きを素早く認知し駆け付ける事が出来た。その結果、導入前と比べると、転倒・転落事故を減らせ、利用者の安心・安全に寄与する事が出来た。 また、転倒・転落事故を減らせた事で、事故報告書に割いていた時間を削減でき、他の業務に充てる事が出来た。 b. 客観的な数値 転倒・転落件数 (導入前) 5件⇒ (導入後) 3件 (3) 職員の負担軽減 a. 職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する具体的な取組成果 検知率や誤報率が優れている為、導入前と比べると、巡回回数を減らせた事で巡回に係る時間が削減され、職員の身体的な負担の軽減を図る事が出来た。削減出来た時間を活用してケア記録等の他の業務に時間を割く事が出来、また残業時間を減少させる事が出来た。 b. 客観的な数値 ・職員の休憩時間 (導入前) 平均1時間/8時間勤務⇒ (導入後) 平均1時間/8時間勤務 ・職員の残業時間 (導入前) 20時間/月⇒ (導入後) 10時間/月 ・夜間の巡回回数 導入前：合計5回 (特に見守りが必要な入所者10名に対しての追加巡回10回) 導入後：合計5回 (特に見守りが必要な入所者10名に対しての追加巡回5回) (4) アンケート 介護ロボットの使用開始1ヶ月間を経過した時点で職員20名に対し (導入の「前」と「後」を比べ) 見守り業務の負担軽減についてアンケートを実施した。 結果は「負担軽減があった」と回答した人数は17名、「負担軽減がなかった」と回答した人数は2名、「変わらなかった」と回答した人数は1名であった。
具体的な事業内容	
7. 導入効果 下記4点をご記入下さい。 ・導入前の客観的な数値 ・導入後の客観的な数値 ・具体的な取組成果 ・アンケート結果	
介護ロボットやWi-Fi工事などの契約日もしくは発注日 (注文日) をご記入下さい。	
事業の着手日	(介護ロボット) 令和3年10月1日 (見守り機器の導入に伴う通信環境整備) 令和3年10月8日
事業の完了日	令和〇〇年〇〇月〇〇日 ← 「様式7」と同じ日付 (右上の日付) をご記入下さい。